

審査結果の要旨

報告番号	甲 第 1195 号	氏名	尾形 智子
審査担当者	主査	矢野 博久	矢野 博久 (印)
	副主査	長藤 宏司	長藤 宏司 (印)
	副主査	秋葉 純	秋葉 純 (印)
主論文題目：Clinicopathological features of in situ follicular neoplasm and relations with follicular lymphoma in Japan (日本における in situ follicular neoplasm の臨床病理学的特徴と濾胞性リンパ腫との関連)			

審査結果の要旨 (意見)

In situ follicular neoplasm (ISFN)は、稀なリンパ濾胞性腫瘍で「Bcl-2 遺伝子の転座を持つ B 細胞クローンの胚中心に局限した増殖」と定義されている。今回、胚中心に局限した Bcl-2 蛋白の強発現が見られた 19 例の ISFN 症例を用いて Chromogenic in situ hybridization 法による Bcl-2 の転座や臨床病理学的因子との関連性について検討を行った。その結果、ISFN では、リンパ腫の合併や既往が高頻度 (約 50%) にみられ、Bcl-2 の転座を証明できた ISFN は 19 例中 1 例と少なく、同一リンパ節内の複数のリンパ腫病変が多クローン性である事も初めて明らかとなった。ISFN のアジアにおける実態はよくわかっていなかったがそれを初めて明らかにした重要な研究であり、学位論文として極めて価値の高いものであると判断する。

論文要旨

In situ follicular neoplasm (ISFN) は、以前は濾胞性リンパ腫 (follicular lymphoma, FL) の前癌状態とされた、稀な疾患である。WHO 4th edition は「BCL-2 に強陽性を示し t(14;18)を示すクローナルな B リンパ球の、胚中心に局限する増殖」と定義している。本報告は、アジア地域からはほぼ初めての、ISFN についての原著論文である。

19 例の ISFN を疑う症例を、2 群に分類した。グループ(1)は、前述の ISFN の定義を満たす群、グループ(2)は、形態学的特徴や免疫組織学的には ISFN を疑うが、明らかな t(14;18)は認められない群である。コントロールとして、FL10 例を用いた。

ISFN と FL について統計学的解析を行ったところ、末梢血赤血球数において FL が有意に低値を示すこと以外には、有意差は認められなかった。

19 例のうち 9 症例は、B (FL を含む) もしくは T 細胞リンパ腫の既往歴や、FL との同時発生が見られた。この所見は、過去の報告とも矛盾せず、ISFN はしばしば FL や他のリンパ腫との同時もしくは異時発生が見られると言える。ISFN と FL が同一リンパ節内で増殖している 2 症例について、分子生物学的解析を行ったところ、ISFN と FL は異なるクローナリティを示した。